



環境対応 ラックオプション

2026.3.1(2.0 版)

DNSHD2シリーズ(Rev. A以降)

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

100G メディアコンバータを 1 台実装し、電源供給を行うための収納シャーシです。それ以外の用途にはお使いにならないで下さい。また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社

警告

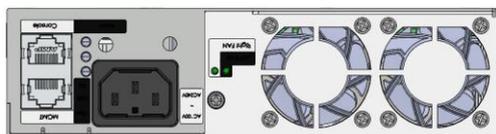
- ・指定の電圧以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・AC電源プラグはACコンセントに確実に差し込んで下さい。
電源プラグの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・アースを必ず接続して下さい。
アースを接続しないと感電の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。

注意

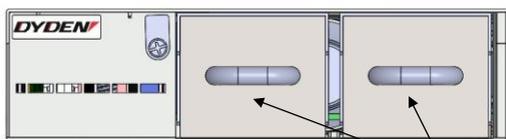
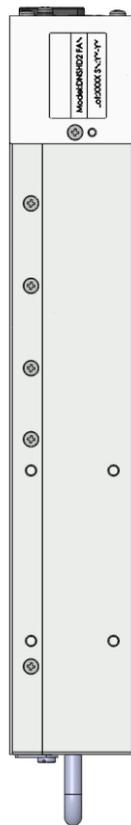
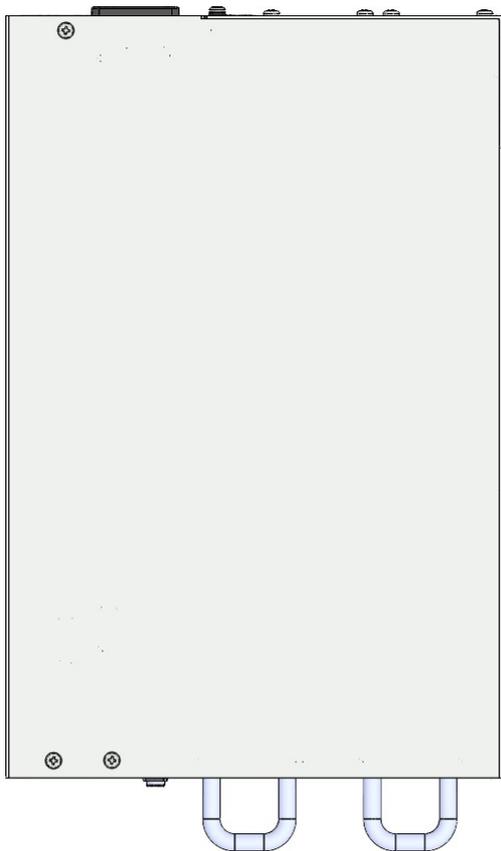
- ・電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
- ・アース線の接続及び取外す時は、AC電源は電源プラグをコンセントから抜いてから、行って下さい。
- ・本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・ファンが回転しない状態では使用しないで下さい。
内部の温度が上がりが故障の原因となることがあります。
- ・本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がりが火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけがの原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がないで下さい。
スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本機をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・本機は底面が下になるように設置して下さい。
落下によるけがや故障の原因となることがあります。

1. 装置各部の説明／付属品

本 体



本体ロットシール



ブラインド

付 属 品

- (前面ブラインド)・・・本機1台に対して前面ブラインド2個が取付けられています。
メディアコンバータを実装する際には取外しますが、メディアコンバータを取外した際に必要となりますので大切に保管して下さい。
- (ラック用マウントブラケット)・・・本機1台に対してラック用マウントブラケット2個付属しています。
19インチラックに本機を取り付ける際にご使用下さい。
- (ラック用延長金具)・・・本機1台に対してラック用延長金具を1式付属しています。
19インチラックに本機を取り付ける際にご使用下さい。
- (底板用ブラケット)・・・本機1台に対して底板用ブラケットを1式付属しています。
本機を土台に対して平置きする場合にご使用下さい。
- (AC ケーブル)・・・1本付属しています。AC100V 専用です。AC200V を使用する場合は AC200V 対応のものを別途ご準備下さい。
- (変換アダプタ)・・・1個付属しています。
- (皿ねじ M4)・・・7 本付属しています。ラック用マウントブラケット、底板用ブラケットを取り付ける際に使用するねじです。
- (トラスねじ M5)・・・4 本付属しています。ラック用延長金具を取り付ける際に使用するねじです。

インターフェイス

〔表示LED〕

Pow	電源供給時に点灯(緑)
Link	リンク確立時に点灯/ データ送受信時に点滅(緑)
Sts	ROMアクセス時に点灯(緑)

〔リセットスイッチ〕

本製品を再起動するためのスイッチです。
先の細い棒などでリセットスイッチを押すと
本製品はハードウェア的にリセットされます。

〔管理ポート〕

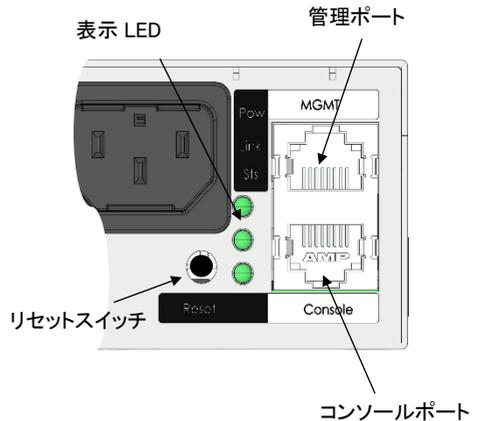
製品をイーサネット経由で管理するためのポート
です。

本製品の背面上段にあり、100BASE-TX または
10BASE-T で使用可能です。

〔コンソールポート〕

本製品を RS-232C 経由で管理するためのポート
です。

本製品の背面下段にあり、ターミナル エミュレ
ーション ソフトウェアを実行するコンピュータに接続
することで使用可能です。



別 売 品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。

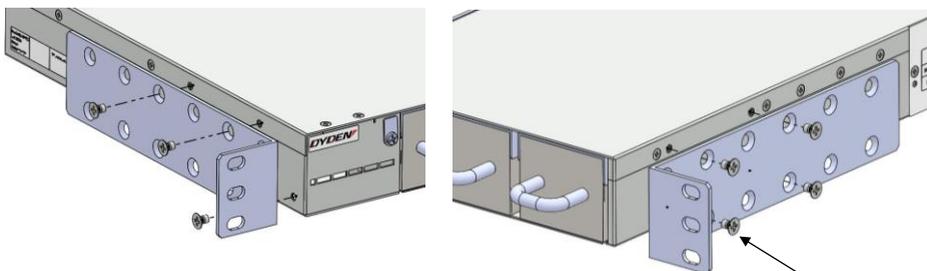
- ・ラック固定用ねじ：本装置を 19 インチラックに固定する場合には、M5 サイズのねじを使用して下さい。
- ・底板用ブラケットねじ：本装置を平置きする場合に、土台に固定するねじです。M4 サイズのねじを使用して下さい。
- ・ツイストペアケーブル(管理ユニット用)：TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリ-5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。
※UTPケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。
- ・RS-232C ケーブル(シリアル用)：専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。なお、ケーブルは Cisco 社製 SW-HUB 用のシリアルケーブルが使用可能です。

2. 本体の設置

手順①: ブラケットの位置調整

○マウントブラケットの取付方法

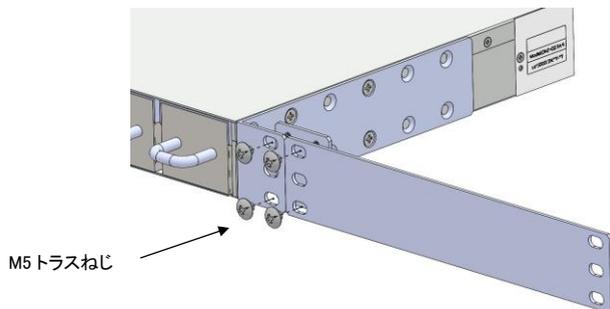
本機は、マウントブラケットの取付け位置を 30mm 間隔で 3 段階スライドすることができます。19 インチラックの形状に応じてメディアコンバータに接続するケーブルの配線スペースを確保できる位置にマウントブラケットを取付けて下さい。



M4 皿ねじ

○延長金具の取付方法

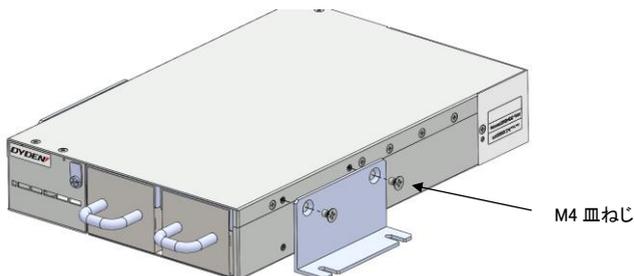
19 インチラック搭載時は、マウントブラケットと延長金具を組み合わせる取付けて下さい。



M5 トラスねじ

○底板用ブラケット

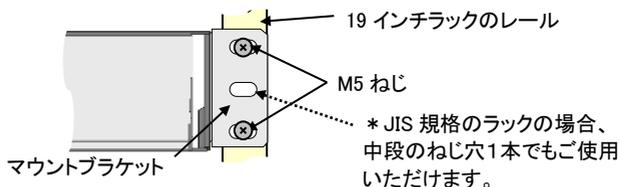
平置き時に固定したい場合は、底板用ブラケットを取り付けて下さい。底板用ブラケットを使用する場合は、DNSHD2 を置いている土台に別途加工が必要になります。寸法については「底面取付け寸法図」をご参照下さい。



※反対側も同じ位置に取り付けて下さい。

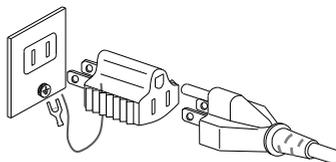
手順②: 19 インチラックへの取付け

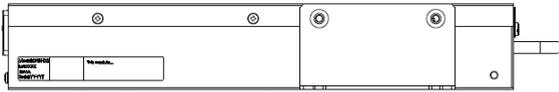
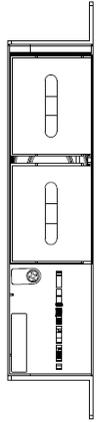
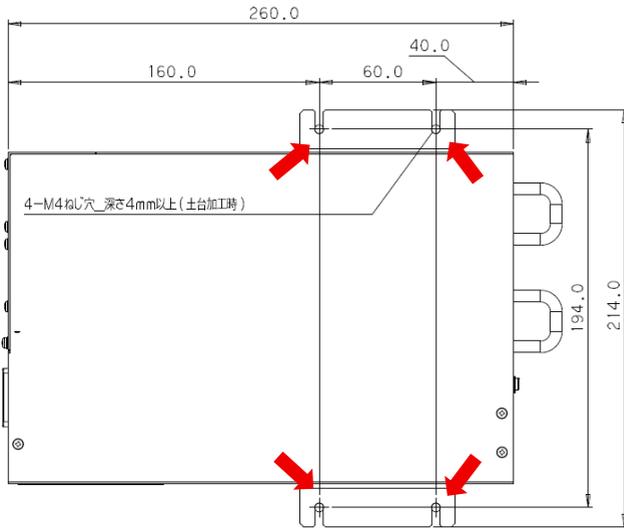
本機のマウントブラケットを 19 インチラックのレールに取り付けて下さい。(M5 ねじ 4 本が必要)



手順③: アース線の接続

接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグの口出し線を接地端子に接続して下さい。



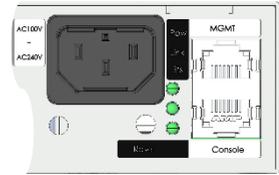


底面取付け寸法図

手順④: 電源の接続

【AC100V電源の場合】

電源ユニットの電源プラグを AC コンセントに差し込んで下さい。

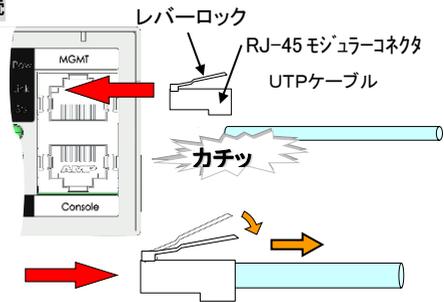


手順⑤: 管理ユニットのUTPケーブル(管理ポート)の接続

①RJ-45モジュラーコネクタを取付けた UTPケーブルを、本体の管理ポートインターフェースに接続して下さい。

※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差し込んで下さい。

※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタやメディアコンバータ本体を破損する恐れがあります。



※UTPケーブルは誤動作・故障する場合がありますので、コンソールポートへは差し込まないで下さい。

手順⑥: 管理ユニットのRS-232Cケーブル(シリアル用)の接続

①専用の RJ-45/D-Sub9 ピン(メス)変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。

②RJ-45 モジュラーコネクタ側を本体のコンソールポートに接続して下さい。

※抜き差しの際については UTP ケーブルと同様です。

※RS-232C ケーブルは誤動作・故障する場合がありますので、管理ポートへは差し込まないで下さい。

③D-Sub9 ピン側をPC等の端末に接続して下さい。

※端末機 D-Sub9 ピン(オス)以外の場合は別途変換コネクタを用意して下さい。

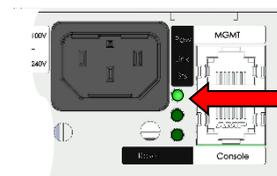
※端末機については、VT100 をサポートした通信ソフトウェアが動作する PC を使用して下さい。

※通信ソフトウェアの設定については、取扱説明書(ソフトウェア)を参照下さい。

3. 接続状態の確認および注意

手順①: 管理ユニットの確認

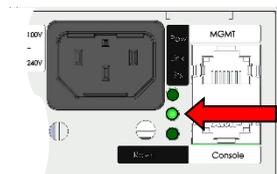
DNSHD2の電源を入れた状態で表示LEDの「Pow」が緑色に点灯していることを確認して下さい。



手順②: 管理ユニットの UTP ケーブルの確認

UTP ケーブルを 10/100BASE-T 対応の機器 (パソコンやスイッチングハブ等) に接続し、表示 LED の「Link」が点灯 (もしくは点滅) することを確認して下さい。

※UTP を介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。



手順③: 管理ユニットの設定時の注意

①本装置はシリアル接続もしくは UTP ケーブルを介しての Telnet 接続によって様々な機能を CLI (Command Line Interface) で設定をすることができます。詳細は、取扱説明書 (ソフトウェア) を参照して下さい。

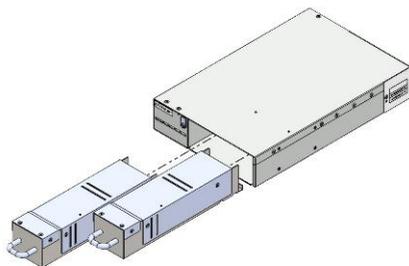
②管理ポート対向側の機器が固定設定 (速度・モード) の場合には、必ず本装置も対向機器の速度・モードと同じになるよう固定設定にして下さい。また、逆の場合も同様です。

※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップしたりする可能性があります。

4. メディアコンバータの取付け

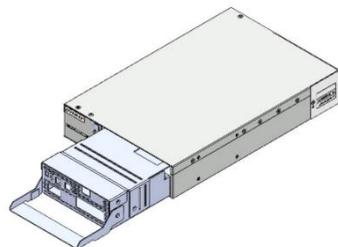
手順①: ブラインドの取外し

手前にあるバーを持ってブラインドを引き抜いて下さい。取外したブラインドは大切に保管して下さい。

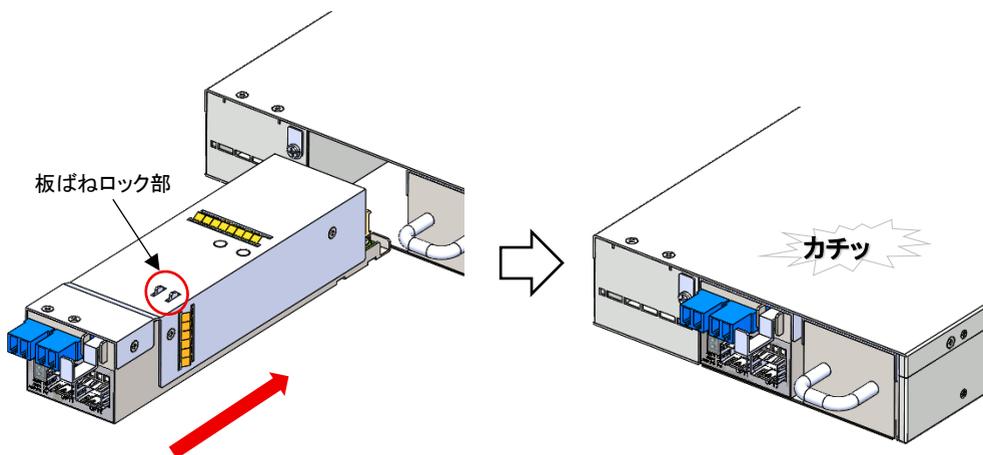


手順②: メディアコンバータの取付け

ブラインドを取外したスロット部にメディアコンバータを左右に寄せないようにまっすぐにして、ゆっくりと奥まで差し込んで下さい。挿入の途中で引っ掛かる場合はメディアコンバータ背面のコネクタがズレている可能性があります。その場合は無理に挿入せず、一度引き抜いて、再度挿入して下さい。



搭載する機器が DNS シリーズの場合、板ばねロック部が「カチッ」と音がするまで奥に確実に差し込んで下さい。

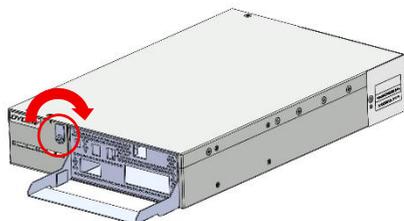


無理に挿入した場合、本機もしくはメディアコンバータのコネクタが破損する可能性があります。本機の電源が投入されている場合には、メディアコンバータの電源表示LEDが点灯することを確認して下さい(メディアコンバータの電源表示 LED については、メディアコンバータの取扱説明書を参照下さい)。

手順③:メディアコンバータのロック(※)

前面のロック部のねじを+ドライバーで回転させ、メディアコンバータが抜けないようにロックして下さい。

※DNS シリーズ機器を搭載する場合は板ばねにてロックをかけるため、本装置のロック機構は不要です。



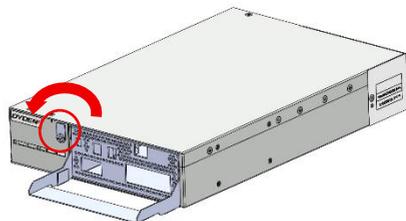
5. メディアコンバータの取外し

手順①: 配線の取外し

メディアコンバータに配線しているケーブルのコネクタを取外して下さい。

手順②: メディアコンバータのロック解除

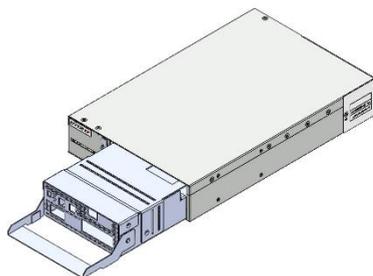
前面のロック部のねじを+ドライバーで回転させ、メディアコンバータが抜けないようにロックを解除して下さい。



手順③: メディアコンバータの取外し

[DN100GE の場合]

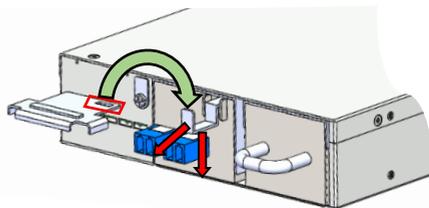
メディアコンバータの手前にあるバーを持って、ゆっくりと引き抜いて下さい。



[DNS シリーズ機器の場合]

各製品に同梱されている治具の穴を製品の取手部に引っ掛けて、取手部を押し下げながらゆっくりと引抜いて下さい。

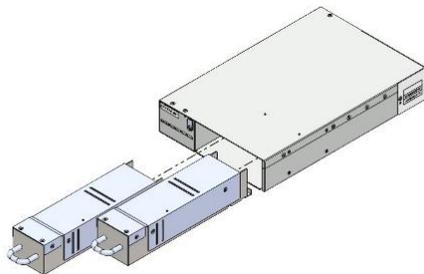
※取手部を下げずに引抜くと、製品のケースを破損する恐れがありますのでご注意下さい。



手順④: ブラインドの取付け

DNSHD2 の左右の壁面に沿わせて、ブラインドを取付けて下さい。本機とブラインドの前面が合うまで挿入して下さい。挿入の途中で引っ掛かる場合はブラインド背面のコネクタがズレている可能性があります。その場合は無理に挿入せず、一度引き抜いて、再度挿入して下さい。

無理に挿入した場合、本機もしくはブラインドのコネクタが破損する可能性があります。



6. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

電源表示 LED が点灯しない

確認①:電源プラグは根元まできちんとコンセントに接続されていますか？

確認②:電源電圧は仕様範囲内ですか？

入力電圧が低すぎる場合は出力をOFFにする機能を内蔵していますので、正しい電源電圧で再接続して下さい。

入力電圧が高すぎた場合、保護回路を内蔵しておりませんので故障の危険があります。ご使用を控えて点検・修理に出して下さい。

ファンが回転していない

確認①:本機の電源表示 LED は点灯していますか？

メディアコンバータに電源が供給されていない

確認①:本機の電源表示 LED は点灯していますか？

確認②:メディアコンバータはきちんと奥まで実装されていますか？

管理ポート用 Link LED が点灯しない

確認①:モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？

確認②:接続相手機器の電源は入っていますか？

確認③:接続相手の機器の設定と本装置の設定はあっていますか？

確認④:UTP ケーブルが断線や異常損失を起していませんか？

代替りの UTP ケーブルで接続してみてください。

管理ポートが通信できない

確認①:管理ポート設定が無効になっていませんか？

コンソールポートにて「portconfig -a」コマンドでポートステータスを確認して下さい。

確認②:管理ポートの IP アドレス、Subnet マスクの設定は正しいですか？

コンソールポートにて「ipconfig -a」コマンドでアドレスを確認して下さい。

コンソールポートが接続できない

確認①:ケーブルや変換コネクタは正しく接続されていますか？

確認②:通信ソフトウェアの設定内容は、本装置に合っていますか？

